

令和8年度 認定こども園概要 (令和7年10月1日の照会に基づく)

認定こども園名称		認定マザーズ・エスパルこども園			
所在地・問合せ先		〒980-0021 仙台市 青葉区中央1-1-1エスパル6階 TEL: 716-3002			

特別支援教育・保育			受入れの可否	応相談	
			方 針	○個別のニーズへの対応 ○能力の向上と困難の克服 ○自立と社会参加の支援	
保育料等費用	無償化対象(※1)	保育料(月額)	全額無償となります。		
	無償化対象外(※2)	入園時費用	【1号認定】入園料 (施設設備充実費・教育充実費として)	10,000 円	
				円	
		その他月額費用	【1・2号認定】給食費(主食)	1,500 円	
			【1号認定】給食費(副食)…提供は休業日除く	5,500 円	
			【2号認定】給食費(副食)…月～土	6,500 円	
			おむつ処理代(希望者のみ)	500 円	
			システム使用料(園のシステム全般)	1,500 円	
		その他費用	日本スポーツ振興センター共済掛金	年額300 円	
			カラー園帽子(1歳児より購入)	810 円	
	布団乾燥代(希望者のみ)		年2回/1回275 円		
預かり保育(1号認定)	早朝預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	月～金 7:00-9:00(人数上限なし)		
		料 金(※3)	日額 400円 ※平日の早朝・通常日預かり費用合わせて上限10,000円とします		
	通常日預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	月～金 13:00-18:00(人数上限なし)		
		料 金(※3)	日額 500円 ※平日の早朝・通常日預かり費用合わせて上限10,000円とします		
	休業日預かり	実施日・時間・1日の預かり人数上限	長期休業日の内、月～金 9:00-18:00(人数上限なし)		
		料 金(※3)	日額 1,200円		
	実施しない日	土・日・祝・年末年始(12/29～1/3)			
	新入園児の入園式前の利用(4月1日から)	可			
	卒園児の卒園式後の利用(3月末まで)	可			
※長期休業日は休業日預かり保育となります					
延長保育(2・3号認定)		実施日・時間・料金 受入可能年齢/月齢	【保育標準時間】 月～金 18:00-19:00(1歳児クラスから利用可) 第1子:月額3,000円/第2子以降:月額1,500円 【保育短時間】 月～土 7:00-8:30・16:30-18:00 3歳未満児 第1子:月額1,000円/第2子以降:月額500円 3歳以上児 第1子:月額400円/第2子以降:月額200円		
◆◆幼児教育・保育の無償化について◆◆ ※1 保育料については、1号認定児は満3歳児クラスから、2・3号認定児は3歳児クラスから全額無償となります。 ※2 実費として徴収される費用(通園送迎費、食材料費、行事費など)は無償化の対象になりません。 ただし、年収360万円未満相当の世帯の子どもと第3子以降の子どもは、3歳児クラスから副食(おかず、おやつ等)費用の減免制度があります。 ※3 1号認定児の預かり保育の利用料は、施設等利用給付認定(新2号・新3号)を受けた子どもを対象に、利用日数に応じて日額450円(3～5歳児クラスは月額上限11,300円、満3歳児は月額上限16,300円)まで無償となります。 なお、2・3号認定児の延長保育料は無償化の対象外です。 ⇒ 詳細は、仙台市ホームページ「幼児教育・保育の無償化について」をご覧ください。 https://www.city.sendai.jp/nintechosa/mushouka_gaiyou.html					

児童の安全確保に向けた取り組み	○絵本や紙芝居等を用いて児童の防犯教育を行っている。 ○防災・防犯訓練を毎月行っている。他、年1回エスパル仙台店と合同で防災訓練を行っている。					
卒園児の通う主な小学校	東六番丁小学校・東二番丁小学校・榴岡小学校・片平小学校・北六番丁小学校					
職員の状況	施設長	1名	保育教諭	10名	保健師・看護師	1名
	栄養士	1名	調理員・用務員	2名	事務員	1名
	バス運転手		清掃員		合計	16名
乳児保育事業	実施の有無	あり				
	乳児受入月齢	2ヵ月～				
	乳児保育に関する特記事項					
園庭遊具	鉄棒・丸太ステップ・平均台					
その他(特色など)	○自主性を育てる保育の実施(子どもが自ら考えて行動できるようにする為、見守る保育を取り入れています) ○1年を通して『異年齢児保育』『伝承あそび』『ファーム活動』『リトミック』『はだし保育』の実施 ○基本的な生活習慣を身につける(マナーやルールを学び、社会性を培っていきます) ○地域との連携の中で地域イベントの参加や、近隣の公園での活動、地域の人との挨拶を通してコミュニケーションを図る ○文字や数に親しむ遊びや生き物の世話・植物の栽培等の経験から学ぶ知識を増やし、様々な身の回りの興味関心を広げる					